

令和4年度 学校評価実施報告書

学校番号 033

学校名 千葉県立船橋法典高等学校

課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	①学校ホームページは、昨年度を超える60回以上の更新をおこなうことで、部活動での活躍や学校行事の様子等を伝えることができた。 ②学校における働き方改革を推進するために、個人ごとにノー残業デーを設定して取り組んだ。しかしながら、前年度11月の勤務時間外の在校等時間は、平均33時間28分だったが、今年度の11月は、平均38時間47分となり、5時間19分増加した。	①今年度は感染症拡大防止対策を講じながら、多くの学校行事を復活させた。日頃の学校生活の様子などについても、これまで以上にきめ細かく情報発信していく。 ②学校評価アンケート(職員)の結果によれば、働き方改革に積極的に取り組んでいると肯定的に回答した割合が46.5%(昨年度から1.2P減)と半数に満たない状況にあり、職員が働き方改革の効果を実感できていない。行事等を再開したことで業務量が増え、負担感が増したものと思われる。工夫しながら教育活動を戻していく必要がある。
学習指導	①学校評価アンケート(生徒)によれば、「きちんと学習活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした生徒が90.0%、「授業内容が理解できている」が同76.8%であり、「授業内容を理解」については、4.7P減となった。 ②6月と11月に授業参観を実施した。授業の様子や学校の取組に対し、保護者からは好意的な意見が寄せられた。	①授業や課題に取り組む態度は良好であり、落ち着いた雰囲気の中で学習することができている。学校評価アンケートにおいて、「学力は向上しつつある」と肯定的に回答した生徒が63.3%と昨年度より2.8P減少した。ICTを有効活用した、わかりやすい授業に取り組むことで自己肯定感を高めていく。 ②保護者等が授業を参観した保護者へのアンケート項目を充実させるなど、より幅広い意見が得られるようにしていく。
生徒指導	①個人面談を4月と9月に実施した。気になる生徒等については教育相談委員会で情報を共有し、スクールカウンセラーや養護教諭と連携して対応することができた。 ②いじめ防止を目的とした調査を学期ごと計3回実施した(報告時点では、2回実施済み)。調査ではいじめを訴える記載はなかったが、いじめの認知につながった事例もあった。	①生徒への声掛けや日頃の様子を観察することで気づいた生徒の変化を、教育相談委員会等で共有し、関係職員が組織的にフォローアップできる体制を維持していく。 ②引き続き、いじめが発生しない安全・安心な学校づくりを心がけ、職員が一丸となっていじめを許さない雰囲気づくりに取り組んでいく。
キャリア教育	1、2年生を対象に、約30の大学や専門学校を招いて進路ガイダンスを開催した。また、進路決定した3年生を招いて、体育館において合格体験報告を実施した。その他、外部講師による面接入門講座や公務員対策講座を開催し、生徒の意識を高める教育に取り組んだ。	引き続き、生徒一人一人のニーズに応じたきめの細かい進路指導を行うことで、生徒、保護者の期待に応えていく。
特別活動	①感染対策を講じつつ、段階的に学校行事を再開させた。学校内で感染が広がることもなく、生徒の満足度は高まり、学校の活性化につながった。 ②部活動の加入率が、昨年度の67%から、今年度は66%に減少した。	①今後も感染防止対策を徹底しながら生徒の安全を第一に考え、職員の働き方改革とのバランスを考えながら、学校行事の充実を図っていく。 ②本校部活動の活躍を幅広く宣伝するなどしてその魅力を伝えるとともに、部活動の活性化を図り、学習だけでなく部活動にも熱心に取り組もうとする生徒の育成に努める。

(第3号様式-2)

自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策の公表について、時期や公表方法を明確に記入する。	学校ホームページにおいて、学校評価実施報告書を3月中に公開する。
--	----------------------------------

※アンケート結果を集計して公表することで、学校評価の結果を公表したとみなすことは適当ではない。

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	①学校ホームページの更新回数を増やしたところ、学校評価アンケート(保護者)の設問「ホームページや学校だより等で学校の様子がよく伝えられている」に肯定的に回答した割合が72.0%と、昨年度と同等の評価が得られた。 ②学校の働き方改革は必要。人と関わる仕事は心が大切。先生が元気でないと生徒も元気が出ない。すぐに改善できるものではないが、しっかり取り組んでほしい。	①学校ホームページで、学校行事の様子や部活動等での生徒の活躍を紹介するなどして、学校の教育活動への理解を深めてもらえるよう、更なる内容の充実に努める。 ②生徒や保護者の満足度を下げずに働き方改革を進めていくことが課題である。行事も再開され業務が増えるが、職員が連携して業務にあたることで負担感を減らしていく。
学習指導	クラスを1つ増やして少人数制で教育を行っていることは、素晴らしい取組だと思う。教員の負担はあると思うが、ぜひ続けてほしい。これは、生徒や保護者の満足度につながると思う。 学校評価アンケート(保護者)によれば、設問「きちんと学習活動に取り組んでいる」に肯定的に回答した割合は89.6%で、過去5年間で最高値を記録した。	ICT機器を有効活用することで授業への興味関心を高めるとともに、感染症対策を講じながら意見交換や学び合いの場を充実させ、主体的に授業に取り組めるような改善を、引き続き進めていく。このような授業改善を通して、「きちんと学数活動に取り組んでいる」、「授業内容が理解できている」といった生徒を増やし、自己肯定感の向上につなげていく。
生徒指導	①スクールカウンセラーへの1、2学期の相談延べ人数が、昨年度は86名だったところ、今年度は90名となり、連携をとりながら対応できるケースが増えた。しかしながら、学校評価アンケート(保護者)によれば、設問「生徒の相談に親身になって応じてくれている」に肯定的に回答した割合が80.0%で、昨年度から2.6P減少した。 ②「先生は相談に親身になって応じてくれる」と80.0%の生徒が回答しているが、教員は全員(100%)が「応じている」と答えている。この乖離を埋めることが、生徒の満足度の向上につながると思う。	①教育相談委員会を有効に機能させ、組織的に生徒支援が行える体制を維持していくとともに、スクールカウンセラーや養護教諭、保護者等とも連携を深めることで、多面的なフォローアップができるよう、これからも更なる指導体制の充実を図っていく。 ②生徒一人一人に対して、丁寧な対応を心がけ、生徒の満足度を高めるとともに、学校評価アンケート(職員)の設問「生徒の相談に親身になって応じている」への肯定的な回答の割合が、4年連続100%となるよう取り組んでいく。
キャリア教育	学校評価アンケート(生徒)によれば、「役立つ進路情報が十分に提供されている」の設問に肯定的に回答している割合は81.5%と、昨年度から、3.7P減少した。	多様な進路に関する情報を幅広く提供するとともに、ガイダンス等で学んだことを振り返る機会を充実させることで、職業選択時のミスマッチを避け、よりよい人生につながるよう、きめの細かい進路指導に取り組んでいく。また、必要な情報をわかりやすく伝えていくようにする。
特別活動	部活動については、若い顧問が増えた印象がある。学校評価アンケート(生徒)によれば、設問「学校行事は充実している」への肯定的な回答が74.2%と、過去5年間で最高値となった。	学校内でクラスタを発生させることなく、教育活動を実施することができた。引き続き、十分な感染症対策を講じた上で、学校行事の充実を図っていく。